

# 各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 森林環境教育 in 芭露学園（湧別町）



### 【網走西部森林管理署】

令和3年8月24日（火）、湧別町立芭露学園で夏の森林環境教育を実施しました。学園からは前期課程生徒の1年生から6年生まで22名と教職員8名、当署より4名が講師として参加しました。今回は学園内の樹木園に生きている樹木について、生徒に身近に感じてもらいたいという趣旨で、自然体験学習「森のビンゴ」「種子の模型づくり」を行いました。

「森のビンゴ」では、2人ペアで移動してもらい、樹木園内で「ギザギザした葉」、「いい匂いのする葉」、「葉のこすれる音」などをヒントに様々なものを探してもらい、気になった葉などを採取しました。制限時間になったら見つけたものを全員で披露し合いました。生徒達からは「よく見るとあの木がタテに割れている！」「この葉っぱはニンジンの匂いがする！」「耳を澄ませると鳥の音が聞こえたよ！」と感想も聞かれ五感を使って自然と触れ合っていました。

## 「地域差検定林」調査を実施しました



### 【宗谷森林管理署】

令和3年8月24日（火）～25日（水）、宗谷森林管理署管内稚内市曲淵地区にある「地域差検定林」の森林調査を実施しました。「地域差検定林」とは、各地の精英樹（森林の中でとび抜けて成長や形質が優れている木のこと）の苗木が同じような生育性を示す植栽環境の範囲を把握し、種苗の合理的な配布区域を定めることを目的として設定されている次代検定林のひとつです。

今回の調査には宗谷森林管理署から10名、森林総合研究所林木育種センター北海道育種場から3名の計13名が参加しました。調査地86プロットを3班に分かれ樹高、胸高部の直径、木の根元と幹の曲がりを調査しました。

今回の調査結果が今まで地道に積み上げてきたデータと照らし合わせ、その評価をするなかで今後の林木育種の発展につながることを期待しています。

## 職場体験学習（インターンシップ）（利尻富士町立鷺泊中学校）



### 【宗谷森林管理署】

令和3年7月15日（木）利尻富士町立鷺泊中学校2年生4名がインターンシップとして利尻森林事務所・鷺泊治山事業所を訪問しました。森林事務所にて治山事業所の業務内容の説明、また、事前にいただいていた「この仕事に就くために必要な資格・進路はありますか」、「仕事をするために大切なことや普段気をつけていることがあれば教えてください」等の質問について回答しました。その後、ヤムナイ沢へ移動し既設の治山ダムや昨年の大雨により溜まった不安定土砂を実際に見学しました。引き続き、レベル（測量機器）と全天球カメラの説明を行い実際に体験しました。

午後からの山腹工の法枠工とノンフレーム工法の説明・現場見学では、治山事業をイメージしやすかったようで「どのくらいの期間で完成するのか」、「こういう理由で工事を行っていたんだ」など質問や感想が多くあげられました。

## 乗車型自走式刈払機実演会を開催しました



### 【上川南部森林管理署】

令和3年7月28日（水）、上川南部森林管理署において、乗車型自走式刈払機による下刈作業の実演会を開催しました。

当日は、穏やかな天候の下、上川総合振興局、南富良野町地域林政アドバイザー、占冠村農林課、富良野地区森林組合、南富良野町森林組合、東京大学北海道演習林、地元造林事業者等関係者及び当署職員の総勢26名が参加しました。

造林作業における省力化・効率化の推進は、造林コストの低減、若手造林業者の労働力確保の観点からも喫緊の課題となっており、当署では、平成28年に下刈の省力化に有効なクラッシャによる地拵とアースオーガ（植穴掘り器）による植付作業やバケット地拵など、試行的に高性能林業機械を取り入れ、その検証を進めており、今年度は、乗車型自走式刈払機による下刈実演会を開催したところです。



北海道には豊かな森林が広がり、そこには様々な樹木が生育しています。

そしてそれぞれの木は独自の生態や四季の観察ポイント、やってくる生きものとのつながり、私たちのくらしとのつながり等たくさんのお話を紹介するシリーズです。

「北海道の木のお話」はこれらのストーリーをイラストで楽しく紹介するシリーズです。

一本の木から広がる世界をぜひご堪能ください。

今回の新作はエゾヤマザクラです。

春に咲くピンクの花は華やかで綺麗ですね。

是非ごらんください。



エゾヤマザクラはアイヌ語で「ガリンパニ」(板皮の木)と呼ばれ、樹皮を弓矢に巻いたり、小物に張り付けたりしました。



エゾヤマザクラやヤマザクラは、木目が緻密で堅いことから、昔は洋裨絵の版木や和菓子の木型に使われていました。今でも家具材として利用されます。樹皮はなめらかで光沢があることから、櫛組と呼ばれる工芸品に利用され、また材はほのかにいい香りがすることから、燻製を作るチップとしても利用されています。

# エゾヤマザクラ

**四季の観察ポイント**

- 春** 花と葉がほぼ同時に開く
- 夏** 葉ははじめ赤みがかる
- 秋** 実が熟すと緑→赤→黒紫色と変化する
- 冬** 冬芽には花芽と葉芽がある

**バラ科 サクラ属**  
樹高 15~20m

花をちぎり取って蜜を吸うアシナガバチ

家の桝にある蟻塚の蜜を吸いに来たアリ

春に周辺の地面から出るアミガサタケ

北海道の山では、他にチシマザクラ、ミヤマザクラ、カスミザクラ等が見られます。

北海道のサクラといえばエゾヤマザクラ。寒さに強く、日本で十種類ある野生のサクラの中で花の色が濃く、厳しい冬の寒さでより色味が増します。春に花が咲くと同時に赤みがかつた葉も開くため、余計に枝先が赤く見えます。別名オオヤマザクラやベニヤマザクラとも呼ばれます。

北海道の木のお話 10

全ての漫画は、専門家や職人への取材・アドバイスを受け、学術的根拠の基づき北海道森林管理局の職員（平田美紗子）が水彩画で作成しています。学校の教材やイベントの資料としてもご利用いただけますのでお問い合わせください。

北海道森林管理局のホームページにて全ページを公開中です。

林野庁 北海道森林管理局 企画課  
住所: 札幌市中央区宮の森3条7丁目70番  
TEL (011) - 622 - 5228

もり  
広報 「北の森林 国有林」 9月号  
発行 林野庁北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森  
3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194  
<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

今月の木 「カエデ」  
カエデはムクロジ科(旧カエデ科)カエデ属 (Acer) の落葉高木の総称で、日本に自生しているカエデの種類は26種類にのぼるとされています。

カエデのイラストを表紙の月数字に載せました。

今月の表紙